

高等学校 令和7年度（1学年用） 教科 保健体育 科目 保健

教 科：保健体育 科 目：保健 単位数： 1 単位
対象学年組：第 1 学年 A 組～ B 組
教科担当者：中田
使用教科書：（新高等保健体育（大修館））

教科 保健体育 の目標：
【知識及び技能】 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】 運動や健康について自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 保健 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	一単元 現代社会と健康 【知識及び技能】 ・現代社会と健康について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、現代社会と健康について理解を深めさせる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現する力を育む。 【学びに向かう力、人間性等】 ・生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。	・指導事項 日本における健康課題の変遷 健康の考え方と成り立ち ヘルスプロモーションと健康に関わる環境づくり 健康に関する意思決定・行動選択 生活習慣病の予防と回復 身体活動・運動と健康 食事と健康 休養・睡眠と健康 ・教材 教科書、プリント ・一人1台端末の活用 等	【知識及び技能】 ・現代社会と健康について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、現代社会と健康について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むことができる。	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
2 学 期	一単元 現代社会と健康 【知識及び技能】 ・現代社会と健康について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、現代社会と健康について理解を深めさせる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現する力を育む。 【学びに向かう力、人間性等】 ・生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。	・指導事項 現代における感染症の問題 感染症の予防 性感染症・エイズとその予防 がんの予防と回復 喫煙と健康 飲酒と健康 薬物乱用と健康 精神疾患の特徴 精神疾患への対応 ・教材 教科書、プリント ・一人1台端末の活用 等	一単元 現代社会と健康 【知識及び技能】 ・現代社会と健康について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、現代社会と健康について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むことができる。	○	○	○	13
	定期考査			○	○		1

3 学 期	二単元 安全な社会生活 【知識及び技能】 ・安全な社会生活について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、安全な社会生活について理解を深めさせるとともに、応急手当を適切にする力を養う。 【思考力、判断力、表現力等】 ・安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現する力を育む。 【学びに向かう力、人間性等】 ・生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。	・指導事項 事故の現状と発生要因 交通事故防止の取り組み 安全な社会の形成 応急手当の意義と救急医療体制 心肺蘇生法 日常的な応急手当 ・教材 教科書、プリント ・一人1台端末の活用 等	【知識及び技能】 ・安全な社会生活について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、安全な社会生活について理解するとともに、応急手当を適切にすることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むことができる。	○	○	○	7
	定期考査			○	○		1

					合計
					35